



▲山田ヶ谷南横穴群B群周辺の現状



埋蔵文化財包蔵地
山田ヶ谷南横穴群

History

キラリを再発見

茶園の周辺にある横穴群

山田ヶ谷南横穴群は、新野地区の山田ヶ谷池の南西に位置しています。昭和48年1月に作成された「静岡県埋蔵文化財包地調査カード」には、先月号で紹介した山田ヶ谷北横穴群A1号墳とともに、「坂田ヶ谷横穴群」という名称で記入されていることから、かなり昔からその存在が判明していたと考えられます。

茶園の北側の丘陵にA群1基とB群2基の合わせて3基の横穴が確認されていますが、A群1号墳は、茶園造成のために入口部分が切られており、全長が1.8mほどしか残っていません。B群はやや奥まった所にあり、茶園造成の切土面の上に開口しています。第1号墳は入口部分がほとんど埋まっています。第2号墳は開口しており、玄室の平面形は壺形で断面はドーム状です。いずれの横穴も発掘調査をしていないため、副葬品などについては不明です。

照 会 社会教育課 回0548㉓1129

Atomic

暮らしと原子力

安全性のさらなる向上へ シビアアクシデント対策

中部電力は、12月20日、浜岡原子力発電所の燃料が重大な損傷を受ける事象（シビアアクシデント）を緩和する対策としてフィルタベントを実施すると公表しました。

中部電力では、昨年3月に原子力安全・保安院（当時）が公表した「東京電力（株）福島第一原子力発電所事故の技術的知見について」を踏まえ検討を重ねた結果、「燃料の損傷を防止する項目」は現在実施中の津波対策で十分対応できることをすでに確認したとしています。

〔シビアアクシデント対策〕

1. 放射性物質の大規模な放出の防止対策

・ **フィルタベント設備の設置**
格納容器ベントにフィルタを介することで、放出される放射性物質（セシウムなど）を千分の1以下に低減する。

る放射性物質（セシウムなど）を千分の1以下に低減する。

2. 格納容器の破損防止対策

格納容器注水ラインの設置やスプレー機能を強化し、冷却機能を確認する。さらに長期冷却のための代替熱交換機の配備など。

3. 非常用直流電源対策

蓄電池容量の増強と重要計器などへ個別専用電源を配備。

これら対策の工事期間は2年〜3年程度と見込まれています。

浜岡原子力発電所の津波対策工事の概要・進捗状況は中部電力ホームページから確認できます。

(http://www.chuden.co.jp/energy/hamaoka/hama_pickup/tsunami_taiou/jishin_to uhoku/index.html)